

(仮称) 旧上瀬谷通信施設地区 土地区画整理事業

環境影響評価方法書の概要

令和2年7月31日

横浜市

1

本日の説明内容

- 1 事業計画の概要
- 2 配慮書からの変更点
- 3 配慮書についての意見及びそれに対する都市計画決定権者の見解
- 4 環境影響評価項目の選定
- 5 調査、予測及び評価の手法
- 6 方法書対象地域

2

1 事業計画の概要

3

事業計画の概要

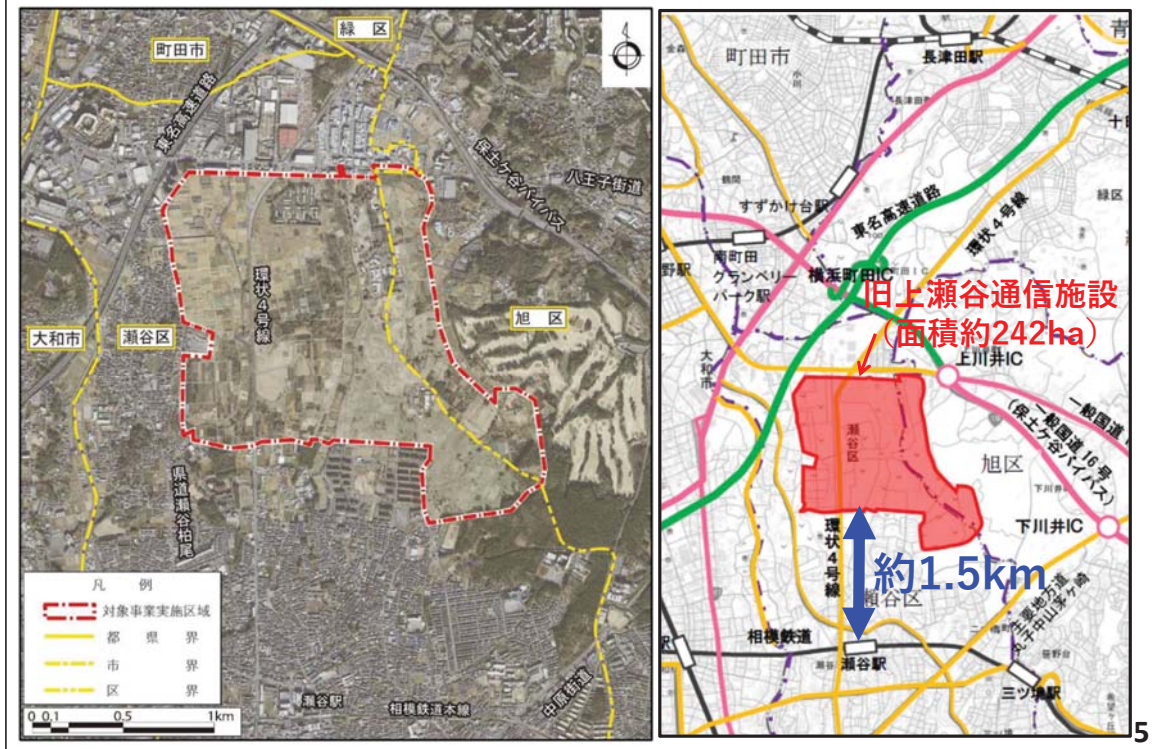
方法書p.2-1

都市計画決定権者の名称 並びに 都市計画対象事業を実施 しようとする者の 氏名及び住所	【都市計画決定権者】 横浜市 【対象事業を実施しようとする者】 名称 横浜市 代表者の氏名 林 文子 主たる事務所の所在地 神奈川県横浜市中区本町6丁目50番地の10
事業の名称	(仮称)旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
都市計画対象事業の 種類・規模	種類：土地区画整理事業 規模：面積 約242ha

4

対象事業実施区域の位置及び規模

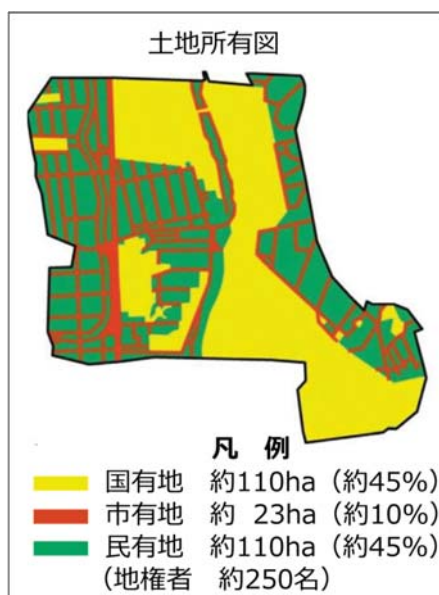
方法書p. 2-1~2-4



背景及び経緯

方法書p. 2-13~2-23

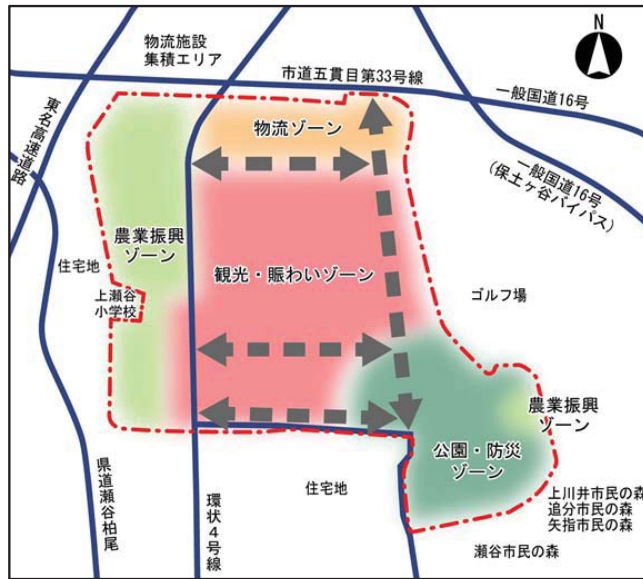
約45%を占めている地権者と土地利用を検討



土地利用計画の方針－基本方針

方法書p. 2-5～2-6

郊外部の新たな活性化拠点の形成に向け次の4つのゾーンを配置



①農業振興ゾーン

営農を希望する地権者を中心に新たな都市農業を行うエリア

②公園・防災ゾーン

国有地を活用し、公園や防災施設等を整備するエリア

③観光・賑わいゾーン

広大な土地を最大限に生かし、集客力のある施設を誘致することで賑わいを創出するエリア

④物流ゾーン

交通の利便性を生かし、新しい物流を行うエリア

凡例

対象事業実施区域

主要な区域内道路

各ゾーンが連携することにより、人やものが行き交い、将来的には年間1,500万人が訪れ、地区全体の価値向上とともに、環境と共生した郊外部の新たな活性化拠点を目指します。

7

土地利用計画の方針－土地利用ゾーンの配置の考え方

方法書p. 2-5～2-6



凡例

対象事業実施区域

主要な区域内道路

■ 現在のまとまりのある農地をいかし旭区、瀬谷区それぞれに「農業振興ゾーン」を配置

■ 瀬谷市民の森や和泉川源流域などの現況の環境に配慮し、「公園・防災ゾーン」を南東側に配置

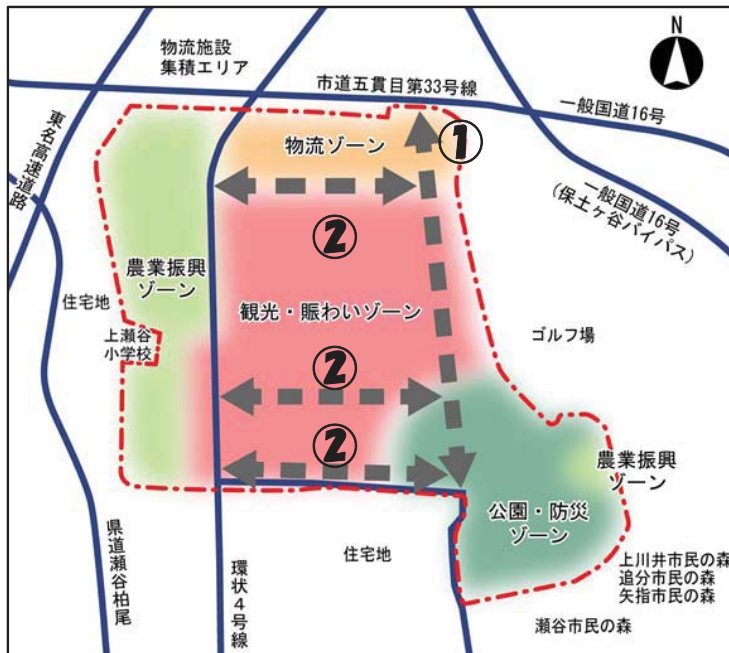
■ 「観光・賑わいゾーン」は可能な限り住宅地と離隔をもって配置

■ 「物流ゾーン」は物流施設集積エリア周辺である北側へ配置し、通学路の安全性等を考慮し、環状4号線東側へ配置

8

公共施設の配置 – 道路計画

方法書 p. 2-7



- ① 市道五貫目第33号線に接続する南北方面の区域内道路
- ② 環状4号線と①をつなぐ3本の東西方面の区域内道路

凡例

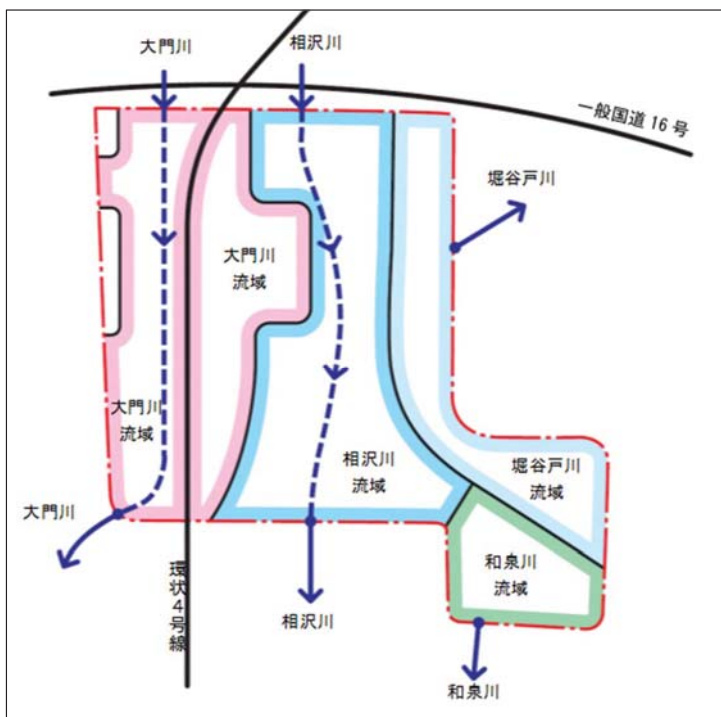
対象事業実施区域

主要な区域内道路

9

公共施設の配置 – 排水施設計画

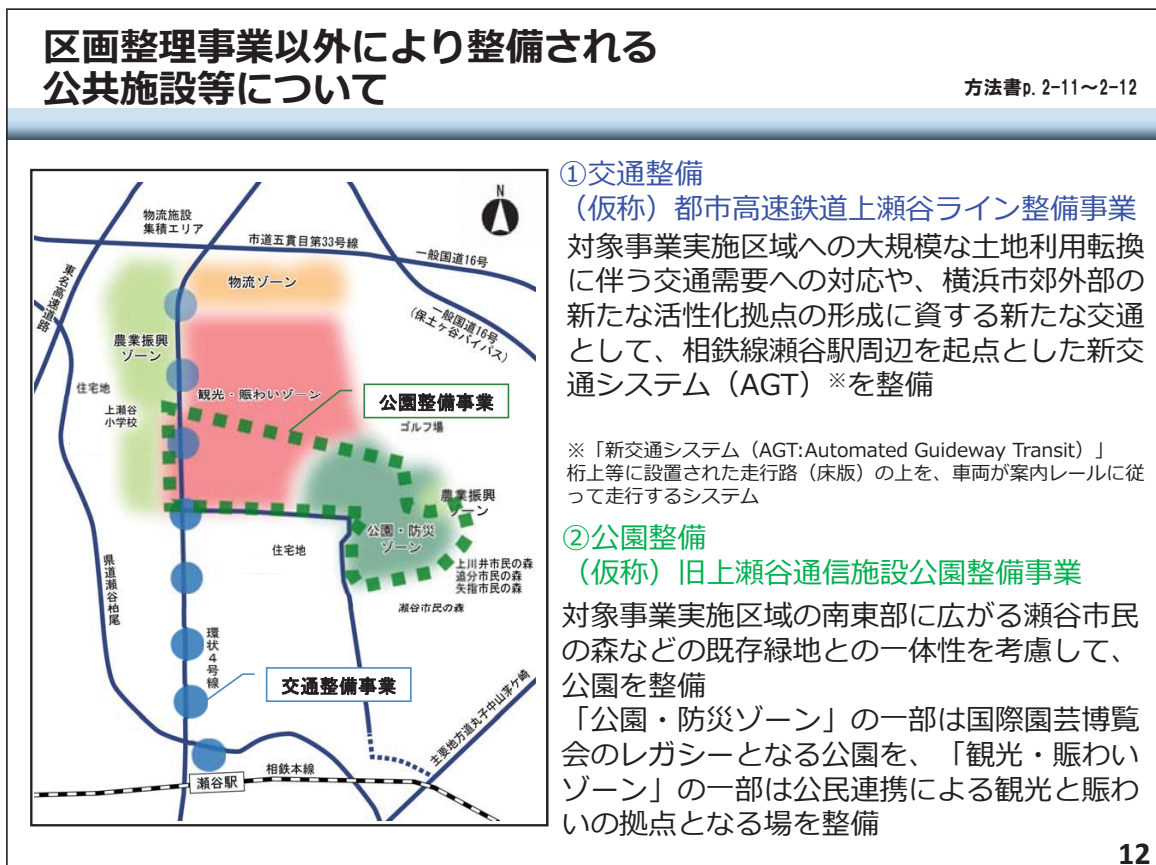
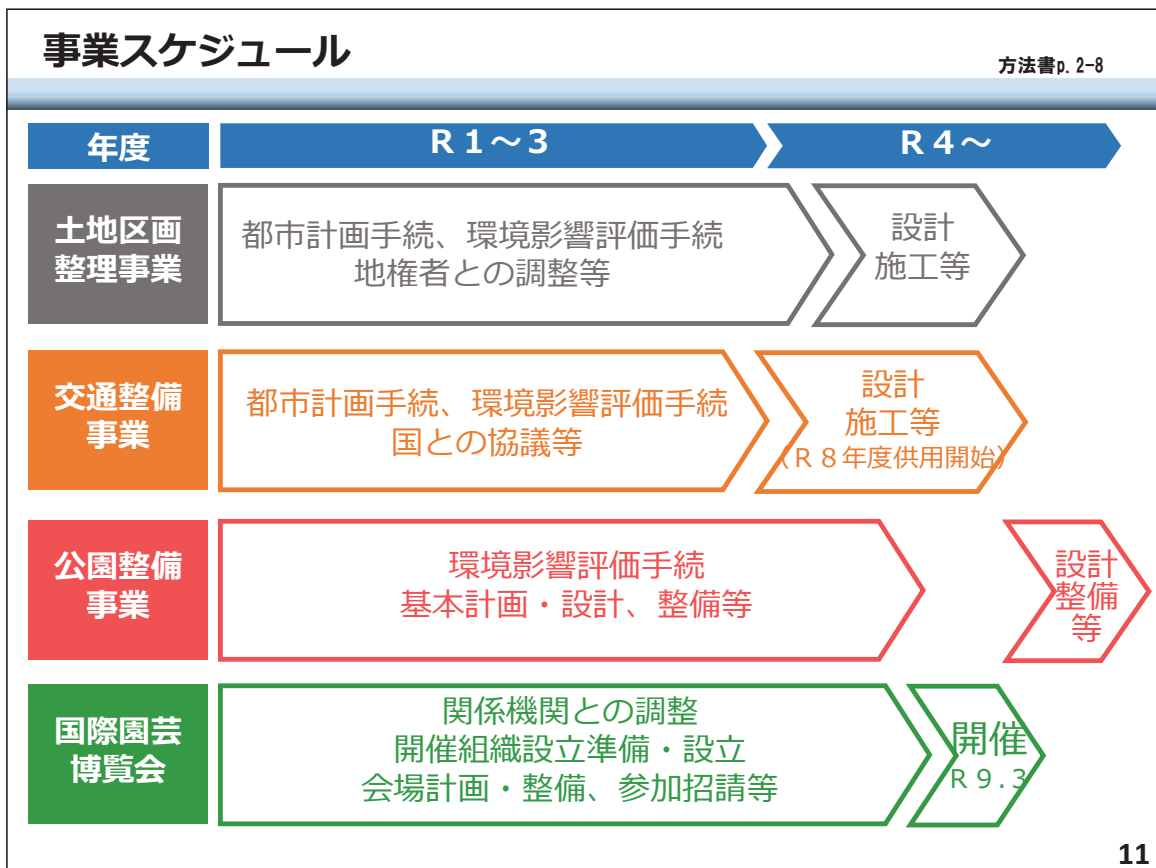
方法書 p. 2-7



■ 調整池は4つの流域ごとに少なくとも1箇所は配置

■ 汚水排水は公共下水道に接続

10



2 配慮書からの変更点

配慮書の内容を変更した主な事項

方法書 はじめに

● 都市計画対象事業の目的及び内容

変更点	概要	記載頁
公共施設の配置	道路計画及び排水施設計画を記載	p.2-7
工事計画	新たに記載	p.2- 8 ~10
関係車両の主な走行ルート		
今後のスケジュール		
横浜市や対象事業実施区域を取り巻く状況	各ゾーンの位置及び規模の決定の経緯、配置や規模に関する考え方や配慮事項等を記載	p.2-13 ~23
計画段階配慮事項の検討結果	計画段階配慮事項についての評価の結果及び環境保全措置を記載	p.2-39 ~41
方法書までの事業内容の具体化の過程における環境保全の配慮に係る検討の経緯	配慮書及び構想段階評価書における評価結果を記載	p.2-41 ~42

3 配慮書についての意見 それに対する見解

主務大臣意見

方法書p.6-1

● 総論

意見の概要		都市計画決定権者の見解概要
①	<u>土地利用等の検討経緯、環境配慮に係る検討の経緯や内容を記載すること。</u>	<u>各ゾーンの配置や規模の決定の経緯、考え方や配慮事項等を方法書に記載しました。環境配慮に係る検討の経緯及び内容は準備書以降に記載します。</u>
②	<u>工事計画の検討に当たっては、住居等への騒音等の影響について適切に調査、予測及び評価を行うこと。</u>	<u>騒音等を環境影響評価項目として選定し、調査、予測及び評価を行い、必要な環境保全措置を講じます。</u>
③	<u>周辺事業との複合的な影響を考慮し、環境影響評価の項目を適切に選定し、調査、予測及び評価を行うこと。</u>	<u>周辺事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測する旨を記載しました。</u>

主務大臣意見

方法書p. 6-2

● 各論

	意見の概要	都市計画決定権者の見解概要
④ 人 触 れ	人と自然との触れ合いの活動の場について、里地里山の自然環境への影響を回避又は極力低減すること。	里地里山の自然環境への影響について、専門家等の助言を踏まえて調査等を行い、影響の回避・低減に努めます。
⑤ 廃 棄 物 等	廃棄物及び建設発生土の発生量の抑制に努めること。	廃棄物及び建設発生土の発生量の抑制のための環境保全措置を検討し、詳細な整備計画に反映させます。
⑥ ガ ス 等 温 室 効 果	工事に伴う温室効果ガスの削減すること。	効率的な施工及び建設機械等の省エネルギー化等の環境保全措置を検討し、工事に伴う温室効果ガスの削減に努めます。

17

市長意見

方法書p. 6-3

● 全般的事項

	意見の概要	都市計画決定権者の見解概要
全 般	最新のデータや知見をもとに、環境影響をできる限り回避、又は低減すること。環境に関する本市の最新の計画等と整合を図るなど、適時、適切な配慮内容となるよう検討すること。	最新の知見等をもとに、環境への影響をできる限り回避、又は低減するよう努めます。環境に関する国や市の最新の計画等と整合を図るなど、適切な配慮内容となるよう検討します。
①	関連3事業で連携し、市民に分かりやすく統一感のある図書作成に努めること。	第3章の記述や第7章の調査位置を示す図面の統一を図りました。
②	各ゾーン選定等に関する考え方や決定の経緯について、内容が十分理解されるよう方法書に記載すること。	各土地利用ゾーンの選定等の考え方及びその決定の経緯について、分かりやすい記述に努めました。

18

市長意見

方法書p.6-3~6-4

● 全般的事項

意見の概要		都市計画決定権者の見解概要
③	関連周辺事業の事業計画を踏まえた環境影響評価項目選定並びに調査、予測及び評価の手法を検討すること。	都市計画対象事業の予測時期において、周辺事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測する旨記載しました。
④	環境影響評価項目の選定に当たっては、参考項目及び横浜市環境影響評価技術指針を勘案しつつ、適切に行うこと。	環境影響評価項目の選定に当たっては、参考項目、横浜市環境影響評価技術指針を踏まえ適切に行いました。
⑤	今後事業計画を進めていく過程においては、広く意見を聴取し、事業計画への反映に努めること。	今後事業計画を進めていく過程においては、広く意見を聴取し、事業計画への反映に努めます。

19

市長意見

方法書p.6-4

● 個別の環境要素に関する事項

意見の概要		都市計画決定権者の見解概要
⑥ 土 壌 汚 染	軍事施設があったことを考慮し、土壌汚染に係る調査を行い、土壌汚染が周辺地下水に及ぼす影響の把握に努めること。	国が実施した調査結果の情報収集に努めるとともに、土壌汚染が懸念される場所を中心とした調査の手法を方法書に記載しました。
⑦ 生 動 物 系 、 植 物	生態系に対するより具体的な配慮について方法書以降の図書に記載すること。	生態系への影響の程度を明らかにし、回避・低減又は代償するための具体的配慮について準備書に記載します。
	ホタルが生息する場合は、在来種であるか否かの把握に努めること。	対象事業実施区域にホタルが生息する場合は、DNA解析等の手法により在来種であるか否かの把握に努めます。

20

市民意見		方法書p. 6-5
意見の概要	都市計画決定権者の見解概要	
①	横浜市内の緑を保全する立場で、開発はできるだけ避けて下さい。	「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」では、都市と緑や農とのバランスのとれた新しいまちづくりを進めていくことを位置付けています。この土地利用基本計画に沿って、都市計画対象事業を進めていきます。
②	横浜市の「米軍施設返還跡地利用指針」（平成18年6月）は市民（区民）の要望に沿うものであり、同指針の立場に戻るべきです。	「米軍施設返還跡地利用指針」では、「水や緑」「魅力ある景観」「経済活動」「レクリエーションやスポーツ」などの環境を、返還施設跡地を活用して幅広く再生していく主旨となっています。 「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」は、上記指針の考え方を継承するものであり、この土地利用基本計画に沿って、都市計画対象事業を進めていきます。

市民意見		方法書p. 6-5
意見の概要	都市計画決定権者の見解概要	
③	公有地は市民のために使うべきであり、テーマパークとして利用するのは、地権者の持ち分の範囲に限定して下さい。	土地区画整理事業を実施することで、旧上瀬谷通信施設の国有地や民有地等の混在を解消することを検討しています。 国有地の配置（換地）については、今後、国との協議等も踏まえ決めていくこととなりますが、公共性の高い公園・防災ゾーンや将来の道路等の公共施設を中心に配置することを前提に検討を進めていきます。

市民意見

方法書p. 6-6

意見の概要	都市計画決定権者の見解概要
④ <u>生態系の評価については、当地の生態系を代表する種を評価対象種とした生物多様性定量評価手法を用い、影響の程度を数値で示して頂きたい。</u>	<u>生態系の予測・評価については、当地の生態系を代表する種として、上位性、典型性、特殊性の視点から対象種を選定するとともに、生物多様性の視点も含めた知見を踏まえ、できる限り分かりやすくとりまとめるよう努めます。</u>
⑤ <u>評価により明らかになった環境影響については、開発区域外の緑地の保全活動を行うことで代償して頂きたい。域内の緑地を一部保存し、維持管理にも積極的に取り組んでほしい。</u>	<u>対象事業実施区域内において緑地を一部保存し、維持管理すること等による環境影響の回避・低減の考え方を重視するとともに、必要に応じて、環境影響の代償措置についても検討し、生態系に対する影響を、できる限り低減できるようにします。</u>

23

4 環境影響評価項目の選定

24

環境影響要因の抽出

方法書p. 7-1~7-2

● 工事の実施

影響要因の区分	抽出の理由
雨水の排水	・ 対象事業実施区域及びその周辺の河川へ雨水の排水を行います。
造成工事の実施	・ 地表（河道を含む。）を改変します。
建設機械の稼働	・ 建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	・ 資材及び機械の運搬に用いる車両が、周辺道路を運行します。

25

環境影響要因の抽出

方法書p. 7-1~7-2

● 土地又は工作物の存在及び供用

影響要因の区分	抽出の理由
敷地の存在（土地の改変）	・ 造成や舗装等による地表面の被覆により、土地が改変されます。
建造物の存在	・ 公共施設による建造物を整備します。
関係車両の走行	・ 従業員や来客者などの車両が周辺道路を走行します。

- 将来的には、年間1500万人が訪れることを見込んでいることから、「関係車両の走行」についても抽出
- 観光・賑わいゾーンや物流ゾーンに建設される上物については、その施設の規模が市条例の規模要件を満たす場合は、市条例に基づく環境影響評価が実施される予定

26

環境影響評価項目の選定—大気環境

方法書 p.7-3

環境要素の区分			影響要因の区分				工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	建造物の存在	関係車両の走行			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気環境	大気質	二酸化窒素 ^{注4}			○	○				○	
			浮遊粒子状物質 ^{注4}			○	○				○	
			粉じん等			○	○					
		騒音	騒音			○	○				○	
		振動	振動			○	○				○	

注1：○：参考項目の中から選定した項目

◎：参考項目ではないが選定した項目（市条例指針に基づく項目を含む。）

×：参考項目であるが、影響が想定されないため、選定しなかった項目

注2：■は、参考項目

注3：参考項目にはないが、基本的事項の別表に掲載されている項目

注4：参考項目や基本的事項にない項目で、市条例指針に基づく項目

27

環境影響評価項目の選定—水環境

方法書 p.7-3

環境要素の区分			影響要因の区分				工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	建造物の存在	関係車両の走行			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	水環境	水質(地下水の水質を除く。)	水の濁り	○								
			水の汚れ ^{注4}	◎								
		底質 ^{注3}	公共用水域の底質		◎							
		地下水 ^{注3}	地下水の水質					◎				
		その他の水環境に係る環境要素	湧水の流量 ^{注4}		◎			◎				
		河川の形態、流量 ^{注4}					◎					

注：脚注はスライド27と同じです。

28

環境影響評価項目の選定—土壌に係る環境その他の環境 動物、植物及び生態系

方法書 p.7-3

影響要因の区分 環境要素の区分				工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
				雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質					×		
		地盤 ^{注3}	地盤の安定性(土地の安定性)					◎		
		土壌 ^{注3}	土壌汚染		◎					
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全		動物(水生生物を含む。)	重要な種及び注目すべき生息地		◎			○		
		植物	重要な種及び群落		◎			○		
		生態系	地域を特徴づける生態系		◎			○		

注：脚注はスライド27と同じです。

29

環境影響評価項目の選定—人と自然との豊かな触れ合い 環境への負荷の量の程度

方法書 p.7-4

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
人と自然との豊かな触れ合い	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○	○	
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場				◎	○	○	◎
環境への負荷の程度	廃棄物等	建設工事に伴う副産物		○					
	温室効果ガス	温室効果ガス			◎	◎			◎

注：脚注はスライド27と同じです。

30

環境影響評価項目の選定—その他の項目

方法書 p. 7-4

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
その他の項目	地域社会 ^{注4}	交通混雑				◎			◎
		歩行者の安全				◎			◎
	文化財等 ^{注4}	文化財等		◎					

注：脚注はスライド27と同じです。

31

5 調査、予測及び評価の手法

32

温室効果ガス

方法書 p. 7-74

● 温室効果ガスの調査手法

調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>温室効果ガスに係る原単位の把握</u> ・ <u>排出抑制対策の実施状況</u> 	資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により、<u>予測式及び原単位の整理</u> ・ 国、自治体で取り組まれている<u>地球温暖化対策等を整理</u>

※ 主な調査項目を記載

33

温室効果ガス

方法書 p. 7-74

● 温室効果ガスの予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る温室効果ガスの排出量、削減の程度等</u>	工事期間中	対象事業実施区域	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により温室効果ガスの <u>排出量を算定</u>
供用時	<u>関係車両の走行に係る温室効果ガスの排出量、削減の程度等</u>	関係車両の走行が、定常状態にある時期		

34

動物

方法書 p.7-51~7-58

● 調査手法(1)

調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> 脊椎動物等の動物相の状況 生息状況、生息環境の状況等 	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	<p><u>哺乳類</u> 任意観察法、トラップ法等により調査 調査時期：4季、夜間調査2季</p> <p><u>鳥類</u> 任意観察法、ラインセンサス法等により調査 調査時期：5季、夜間調査2繁殖期 猛禽類調査2繁殖期</p> <p><u>両生類、爬虫類</u> 任意観察法、任意採取法等により調査 調査時期：4季、夜間調査3季</p> <p><u>昆虫類</u> 任意観察法、トラップ法等により調査 調査時期：3季、夜間調査1季、鳴声調査1季</p>

※ 主な調査項目を記載

35

動物

方法書 p.7-51~7-58

● 調査手法(2)

調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> 脊椎動物等の動物相の状況 生息状況、生息環境の状況等 	現地	<p><u>クモ類</u> 任意観察法、任意採取法により調査 調査時期：3季</p> <p><u>魚類</u> 任意観察法、任意採取法により調査 調査時期：4季</p> <p><u>陸産貝類</u> 任意観察法、任意採取法により調査 調査時期：2季</p> <p><u>底生動物</u> 任意観察法、任意採取法等により調査 調査時期：4季</p> <p>調査範囲は、対象事業実施区域及びその周辺 約200mの範囲内</p>

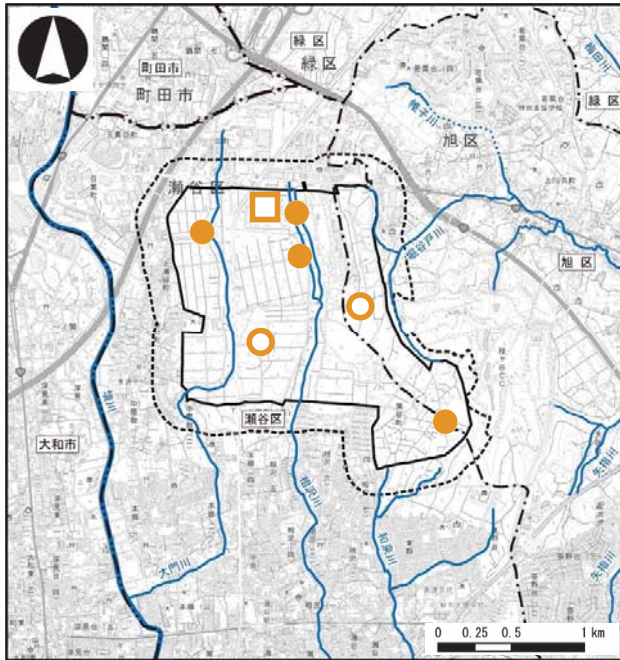
※ 主な調査項目を記載

36

動物（哺乳類）

方法書 p. 7-54

● 調査地点



- 哺乳類（トラップ）
- 哺乳類（トラップ・無人撮影カメラ）
- 哺乳類（無人撮影カメラ）

凡例

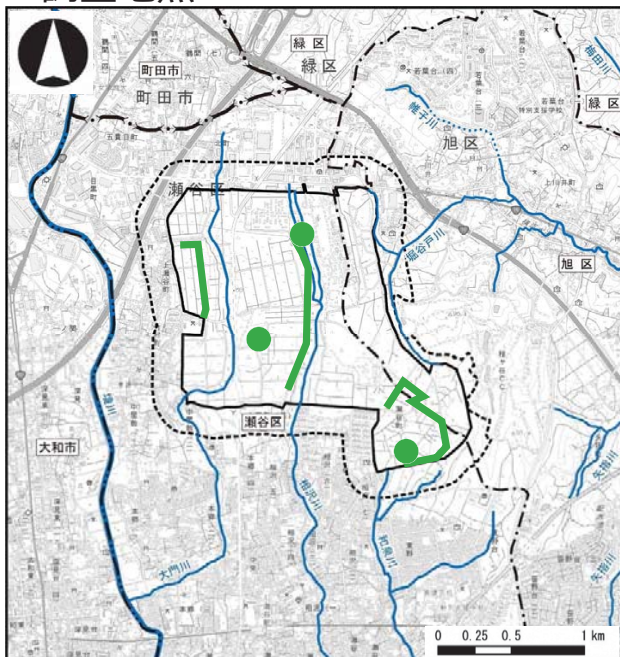
- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ⋯ 都県界
- 区界
- 河川

37

動物（一般鳥類）

方法書 p. 7-55

● 調査地点



- 一般鳥類（定点）
- 一般鳥類（ライン）

凡例

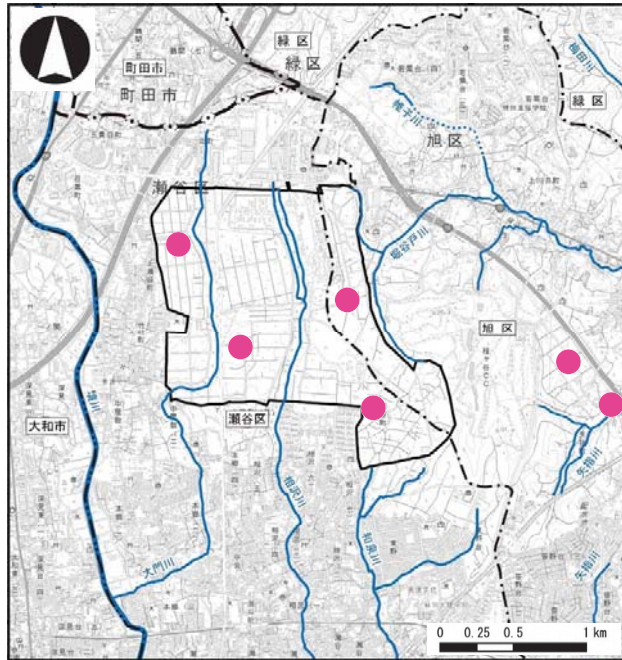
- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ⋯ 都県界
- 区界
- 河川

38

動物（猛禽類）

方法書 p. 7-56

● 調査地点



● 猛禽類（定点）

凡例

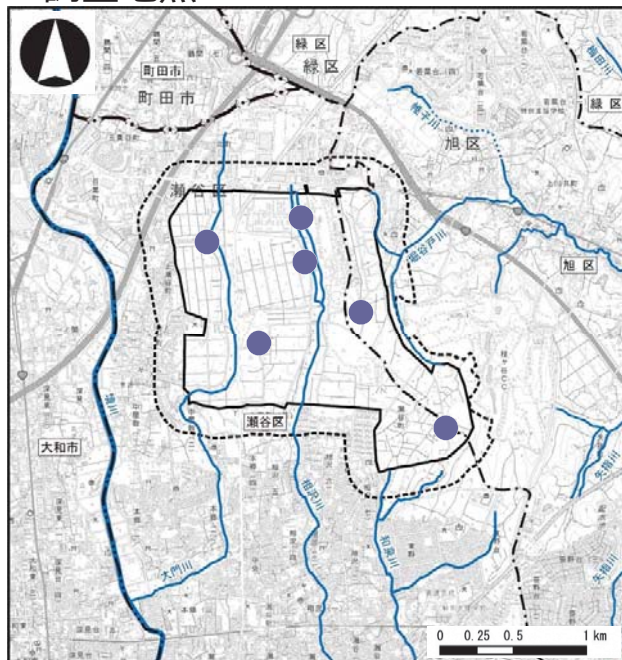
- 対象事業実施区域
- 市界
- ◁・▷ 都県界
- 区界
- 河川

39

動物（昆虫類・クモ類）

方法書 p. 7-57

● 調査地点



● 昆虫類（トラップ）・クモ類

凡例

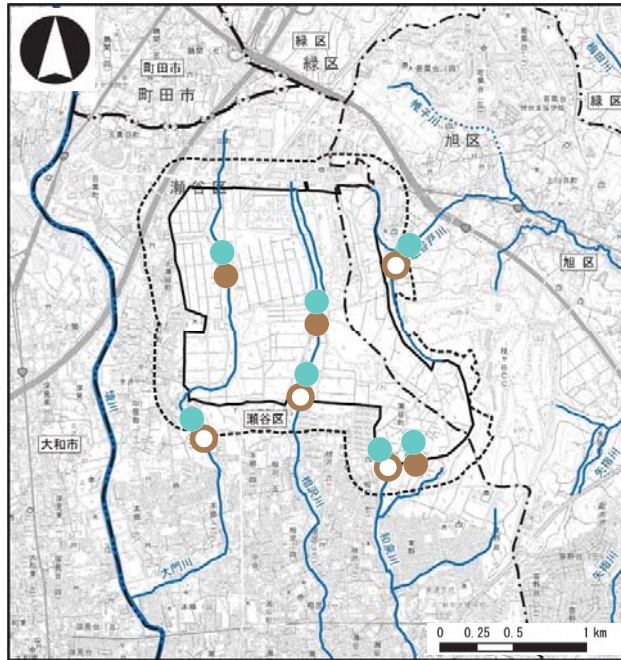
- 対象事業実施区域
- 市界
- ◁・▷ 都県界
- 区界
- 河川

40

動物（魚類・底生動物）

方法書 p. 7-58

● 調査地点



- 魚類
- 底生動物（任意のみ）
- 底生動物（任意・定量）

魚類と底生動物の調査地点は、
 図中では凡例が分かりやすいよ
 うに離して表示していますが、
 同一地点です。

凡 例

- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ◀・▶ 都県界
- 区界
- 河川

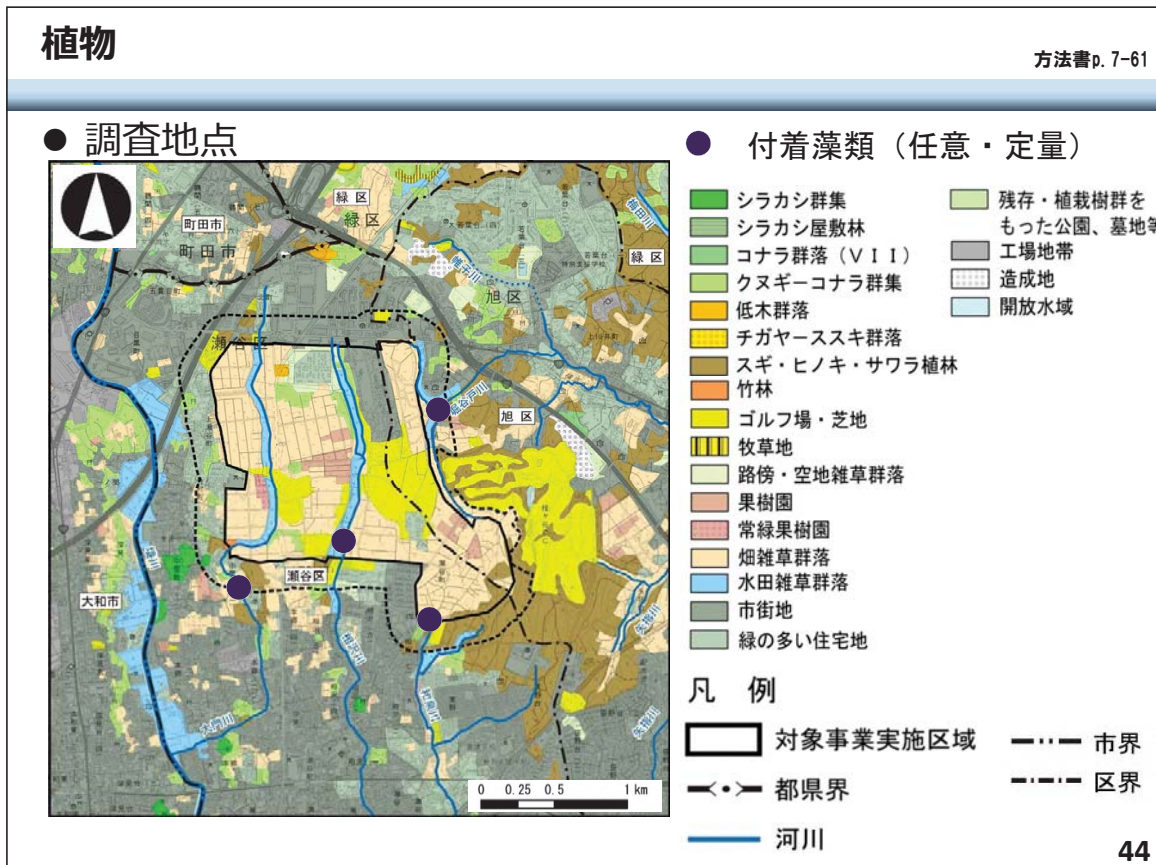
動物

方法書 p. 7-51~7-58

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工 事 中	<u>造成工事の実 施及び敷地の 存在（土地の 改変）による 動物の重要な 種への影響の 程度</u>	工事による動物への 影響が最大となる時 期	重要な種及び注目す べき生息地に係る環 境影響を受ける恐れ があると認められる 地域	動物の重要な種及び 注目すべき生息地と 工事計画又は事業計 画等を重ね合わせる こと等により影響の 程度を予測
		対象事業実施区域内 の施設が全て存在し ている時期		
供 用 時				

植物		方法書 p. 7-59~7-61
● 調査手法		
調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> 種子植物等の植物相及び植生の状況 群落の分布、生育状況、生育環境の状況 	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	<p>植物相 任意観察法、任意採集法により調査 調査時期：4季、蘚苔類2季</p> <p>植物群落 コドラート法により調査 調査時期：2季</p> <p>付着藻類 任意観察法、定量採取法により調査 調査時期：4季</p> <p>調査範囲は、対象事業実施区域及びその周辺約200mの範囲内</p>
※ 主な調査項目を記載		43



植物

方法書 p.7-59～7-61

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>造成工事の実施及び敷地の存在(土地の改変)による植物の重要な種、群落への影響の程度</u>	工事による植物への影響が最大となる時期	重要な種及び群落に係る環境影響を受ける恐れがあると認められる地域	植物の重要な種及び群落の状況と工事計画又は事業計画等を重ね合わせることでより影響の程度を予測
供用時		対象事業実施区域内の施設が全て存在している時期		

45

生態系

方法書 p.7-62～7-63

● 調査手法

調査項目	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・動植物その他の自然環境に係る概況 ・複数の注目種等の生態、他の動植物との関係等の状況 	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	動物、植物の現地調査結果を用い、注目種を抽出し、必要に応じ追加の現地調査を実施

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>造成工事の実施及び敷地の存在(土地の改変)による生態系への影響の程度</u>	工事による生態系への影響が最大となる時期	注目種等に係る環境影響を受ける恐れがあると認められる地域	注目種等の分布、生息環境及び生育環境の状況と工事計画又は事業計画等を重ね合わせることでより影響の程度を予測
供用時		対象事業実施区域内の施設が全て存在している時期		

46

地下水及びその他の水環境に係る環境要素

方法書 p. 7-39~7-45

● 地下水水質の調査手法

調査項目※	調査方法	
地下水水質の状況 ・地下水の水質汚濁に係る環境基準 (28項目) ・参考項目 (pH、電気伝導度等) ・ダイオキシン類	資料	入手可能な最新の資料の 収集・整理
	現地	「地下水の水質汚濁に係る環 境基準について」、「ダイオ キシン類による大気汚染、 水質の汚濁及び土壌の汚染に 係る環境基準について」に定 められる方法により測定 調査期間：1回
地形、地質及び帯水層の状況	資料	入手可能な最新の資料の 収集・整理
	現地	ボーリング調査 調査期間：1回

※ 主な調査項目を記載

47

地下水及びその他の水環境に係る環境要素

方法書 p. 7-39~7-45

● その他の水環境に係る環境要素の調査手法 (湧水の流量)

調査項目※	調査方法	
湧水の状況 ・水温、pH、電気伝導度	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	分布状況把握の踏査、湧水量の測定 調査期間：平常時2回 (湧水期、豊水期)
地形、地質の状況	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	ボーリング調査 調査期間：1回

● その他の水環境に係る環境要素の調査手法 (河川の形態・流量)

調査項目※	調査方法	
河川の形態、流量の状況 ・河川の流量	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	「水質調査方法」に定める方法により河川 の流量を測定 調査期間：平常時2回 (湧水期、豊水期) 降雨時2回

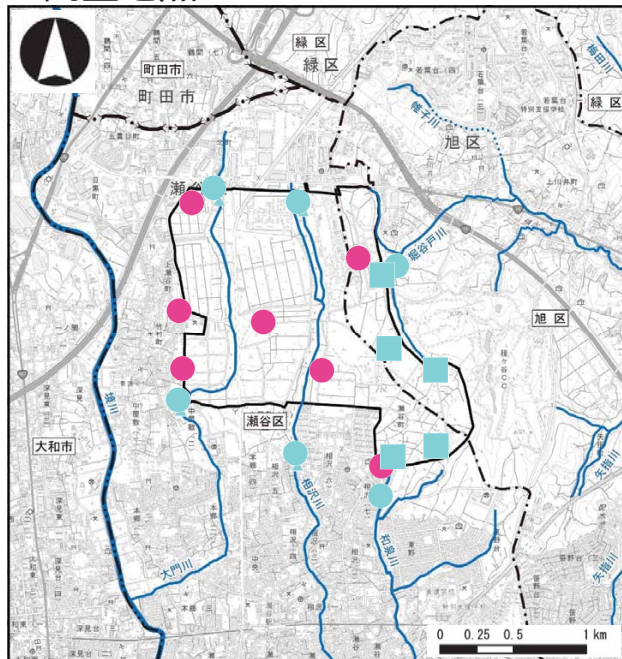
※ 主な調査項目を記載

48

地下水及びその他の水環境に係る環境要素

方法書 p. 7-45

● 調査地点



- 水質調査（湧水）
- 地質調査、地下水調査
- 水質調査（河川）

凡例

- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ◁▷ 都県界
- 区界
- 河川

49

地下水及びその他の水環境に係る環境要素

方法書 p. 7-39~7-45

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	造成工事の実施に伴う湧水の流量	工事による影響が最大となる時期	対象事業実施区域及びその周辺の5地点	湧水の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を予測
供用時	敷地の存在（土地の改変）による地下水の水質	対象事業実施区域内の施設が全て存在し、かつ事業活動が平常状態になり、新たな環境が安定する時期	対象事業実施区域及びその周辺の7地点	地下水の水質の状況と工事計画、事業計画から定性的に予測
	敷地の存在（土地の改変）による湧水の流量		対象事業実施区域及びその周辺の5地点	湧水の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を予測
	敷地の存在（土地の改変）による河川の形態、流量		対象事業実施区域及びその周辺の6地点	河川の形態、流量の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を予測

50

廃棄物

方法書 p.7-73

● 廃棄物の調査手法

調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物及び建設発生土の処理処分状況 ・ 土地利用の状況 	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	必要に応じて現地踏査により実施

※ 主な調査項目を記載

● 廃棄物の予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	造成工事の実施に伴う産業廃棄物、建設発生土	工事期間中	対象事業実施区域	副産物の種類ごとに発生量を推定し、本事業での実行可能な処理方法等を整理し、最終処分量を予測

51

大気質

方法書 p.7-9~7-21

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
大気質の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化窒素 ・ 浮遊粒子状物質 ・ 粉じん等 	資料	対象事業実施区域近傍等の常時監視測定局の観測データの収集・整理
	現地	二酸化窒素、浮遊粒子状物質 「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法により測定 調査期間：7日間×24時間×4季 粉じん等 「衛生試験法」に定められる方法により測定 調査期間：1ヶ月×4季
気象の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 風向、風速 ・ 日射量 ・ 放射収支量 	資料	横浜地方気象台、対象事業実施区域近傍等の常時監視測定局の観測データの収集・整理
	現地	「地上気象観測指針」に定める方法により測定 調査期間：7日間×24時間×4季

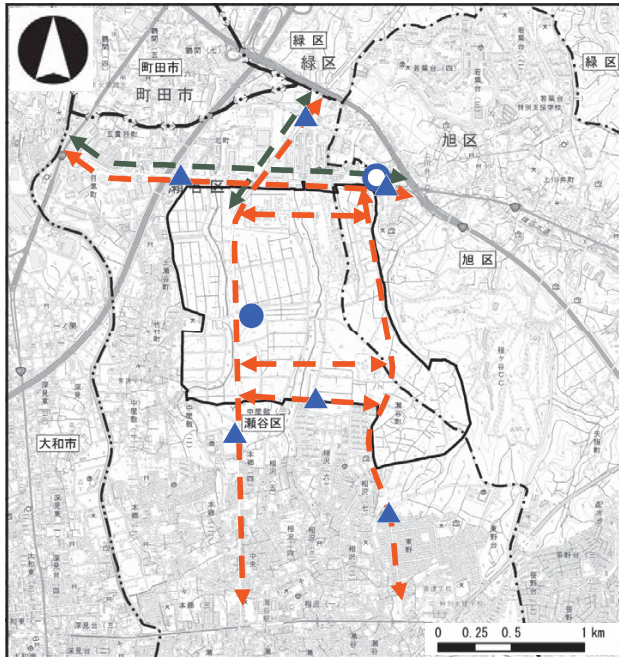
※ 主な調査項目を記載

52

大気質

方法書 p. 7-21

● 調査地点



- 公定法（一般大気）、地上気象
- 公定法（沿道大気）
- ▲ 簡易法（沿道大気）
- ←→ 資材及び機械の運搬に用いる車両の主な運行ルート
- ←→ 関係車両の主な運行ルート

凡例

- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ◁▷ 都県界
- 区界

53

大気質

方法書 p. 7-9~7-21

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	建設機械の稼働に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び降下ばいじん量	建設機械の稼働による排出量が最大となる時期	二酸化窒素、浮遊粒子状物質：最大着地濃度の出現する地点を含む範囲 降下ばいじん量：工事施工ヤードの敷地境界線上 地上1.5m	二酸化窒素、浮遊粒子状物質：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づく大気拡散式（ブルーム・パフ式）により年平均値を予測 降下ばいじん量：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき季節別ばいじん量を定量的に予測
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び降下ばいじん量	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による排出量が最大となる時期	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートとして想定される道路沿道4地点	
供用時	関係車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質	対象事業実施区域内の施設がすべて利用されている時期	関係車両の走行ルートとして想定される道路沿道の7地点	

54

水質及び底質

方法書 p.7-33~7-38

● 水質の調査手法

調査項目※	調査方法	
水質の状況 ・生活環境項目 (4項目) ・健康項目 (27項目) ・ダイオキシン類	資料	横浜地方気象台及びアメダス海老名観測所等入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	「水質調査方法」及び「水質汚濁に係る環境基準について」等に定める方法により測定 調査期間：・生活環境項目 平常時2回（渇水期、豊水期） ・生活環境項目のSS 降雨時2回 ・健康項目、ダイオキシン類 平常時の1回
地形、地質 (土質)の状況	資料	地形図等入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	土壌の沈降試験を実施 調査期間：1回

※ 主な調査項目を記載

55

水質及び底質

方法書 p.7-33~7-38

● 底質の調査手法

調査項目※	調査方法	
底質の状況 ・土壌環境基準 (29項目) ・底質のダイオキシン類	現地	「底質調査方法」等に定める方法により測定 調査期間：1回
流れの状況	現地	「水質調査方法」に定める方法により測定 調査期間：1回

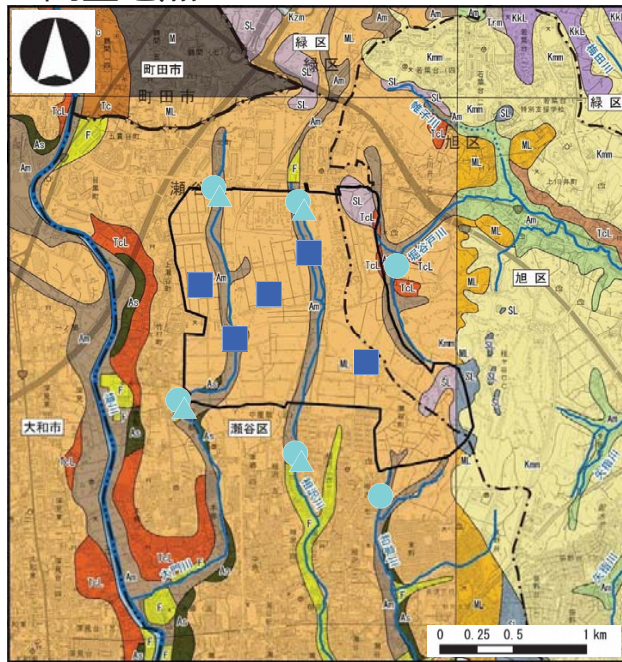
※ 主な調査項目を記載

56

水質及び底質

方法書 p. 7-38

● 調査地点



● 水質調査 (河川)

▲ 底質調査 (河川)

■ 土質調査

- Am 沖積層 (泥を主とし砂を含む)
- As 沖積層 (砂・礫を主とし泥を含む)
- Tcl 立川ローム層
- Tc 立川ローム層・立川段丘堆積物
- Tcl 立川ローム層・立川礫層
- ML 武蔵野ローム層
- M 武蔵野ローム層・武蔵野段丘堆積物
- ML 武蔵野ローム層・武蔵野礫層
- SL 相模層群・下末吉ローム層
- SL 相模層群・下末吉ローム層・下末吉層
- KKL 相模層群・山王台ローム層・上倉田層
- Kzm 上総層群
- Trm 上総層群・鶴川層
- Kmm 上総層群・上星川層
- Am 低湿地堆積物
- F 埋土
- F 盛土
- 水部分
- なし

凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 都県界
- 区界
- 河川

57

水質及び底質

方法書 p. 7-33~7-38

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	雨水の排水に伴う水質 ・水の濁り (浮遊物質質量) ・水の汚れ (生活環境項目、健康項目及びダイオキシン類)	工事による影響が最大となる時期	対象事業実施区域及びその周辺の6地点	水の濁り 完全混合式による定量予測 水の汚れ 生活環境項目： 想定される工事排水量等を用いて、影響の程度を定性的に予測 健康項目及びダイオキシン類： 土壌汚染並びに地下水の水質の現地調査結果並びに環境保全措置を踏まえ、定性的に予測
	造成工事の実施に伴う底質 ・土壌汚染の環境基準項目 (ダイオキシン類を含む)	造成工事の実施による影響が最大となる時期	対象事業実施区域及びその周辺の4地点	底質 造成工事の実施の内容等を用いて、影響の程度を定性的に予測

58

土壌

方法書 p.7-48~7-50

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
土壌汚染 ・土壌環境基準 (29項目) ・ダイオキシン類 ・地質等	資料	地歴情報について、入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	・「土壌環境基準」及び「ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアル」に定める方法により測定 調査期間：1回 ・ボーリング調査

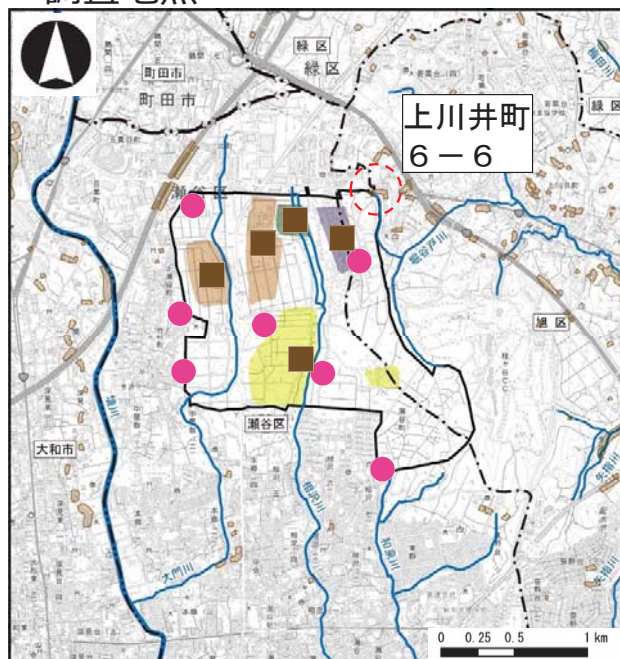
※ 主な調査項目を記載

59

土壌

方法書 p.7-50

● 調査地点



- 地質調査
- 土砂災害警戒区域
- 土壌汚染調査地点
- 1941年7月24日時点で建造物があった範囲（旧日本海軍関係施設）
- 1941年7月24日～1946年2月15日の間に新たに建造物が建設された範囲（旧日本海軍関係施設）
- 1949年2月21日～1956年3月10日の間に新たに建造物が建設された範囲（米軍関係施設）
- 1956年3月10日～1961年10月17日の間に新たに建造物が建設された範囲（米軍関係施設）

凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 都県界
- 区界
- 河川

60

土壌

方法書 p. 7-46~7-50

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>造成工事の実施による土壌汚染</u>	工事による影響が最大となる時期	土壌汚染に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域	<u>土壌汚染の状況、工事計画を踏まえ、土壌汚染への影響の程度を予測</u>

61

騒音及び振動

方法書 p. 7-22~7-32

● 騒音の調査手法

調査項目※	調査方法	
騒音の状況 ・ <u>一般環境騒音</u> ・ <u>道路交通騒音</u>	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法により、測定 調査期間：平日及び休日×各1回×24時間
交通量等の状況	資料 現地	<u>道路交通センサス等既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
	現地	<u>断面交通量</u> （方向別及び車種別交通量）を測定 調査期間：平日及び休日×各1回×24時間

※ 主な調査項目を記載

62

騒音及び振動

方法書 p.7-22~7-32

● 振動の調査手法

調査項目※	調査方法	
振動の状況 ・一般環境振動 ・道路交通振動	現地	「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)に定める方法に準拠し、測定 調査期間：平日及び休日×各1回×24時間
地盤の状況 ・地盤卓越振動数	現地	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、測定 調査期間：大型車の単独走行10台
交通量の状況	資料 現地	道路交通センサス等既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	断面交通量（方向別及び車種別交通量）を測定 調査期間：平日及び休日×各1回×24時間

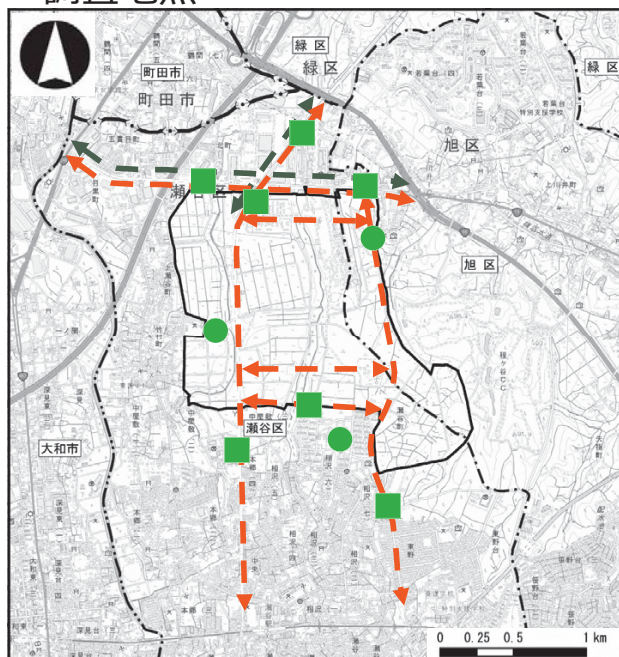
※ 主な調査項目を記載

63

騒音及び振動

方法書 p.7-32

● 調査地点



● 騒音・振動調査
（一般環境）

■ 騒音・振動調査
（道路沿道）、
断面交通量調査

←▶ 資材及び機械の運搬に
用いる車両の主な運行
ルート

←▶ 関係車両の主な運行
ルート

凡 例

▭ 対象事業実施区域

--- 市界

—・— 都県界

--- 区界

64

騒音及び振動

方法書 p.7-22~7-32

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	建設機械の稼働に伴う騒音・振動	建設機械の稼働による騒音又は振動が最大となる時期	騒音又は振動に係る環境影響を受けおそれがあると認められる地域	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、騒音レベル、振動レベルを予測
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う騒音・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による等価交通量が最大となる時期	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートとして想定される道路沿道の4地点	騒音： 予測計算レベルにより、等価騒音レベルを予測 振動： 「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、時間率振動レベルを予測
供用時	関係車両の走行に伴う騒音・振動	対象事業実施区域内の施設がすべて利用されている時期	関係車両の走行ルートとして想定される道路沿道の7地点	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、時間率振動レベルを予測

65

地盤

方法書 p.7-46~7-47、7-50

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
地盤 ・過去の災害等の状況 ・地盤の安定性	資料	有史以来の状況について、入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	土砂災害警戒区域付近を踏査し、地形、地質、斜度等を確認 調査期間：1回

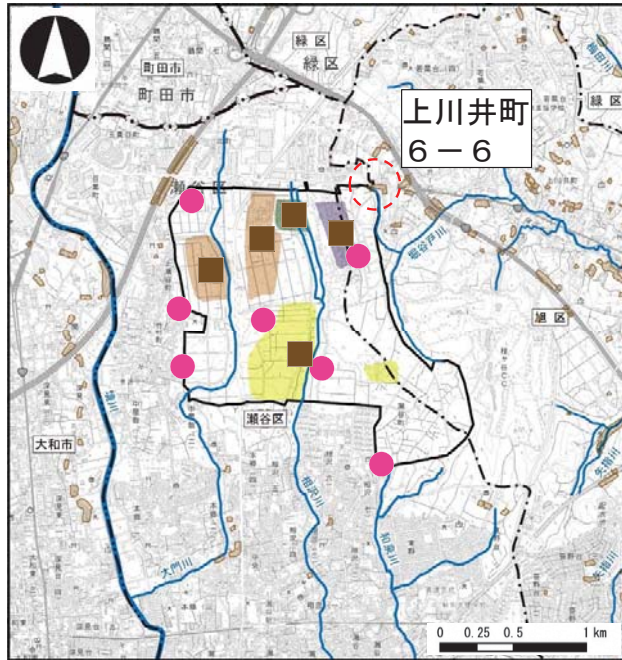
※ 主な調査項目を記載

66

地盤

方法書 p. 7-50

● 調査地点



- 地質調査
- 土砂災害警戒区域
- 土壌汚染調査地点
- 1941年7月24日時点で建造物があった範囲（旧日本海軍関係施設）
- 1941年7月24日～1946年2月15日の間に新たに建造物が建設された範囲（旧日本海軍関係施設）
- 1949年2月21日～1956年3月10日の間に新たに建造物が建設された範囲（米軍関係施設）
- 1956年3月10日～1961年10月17日の間に新たに建造物が建設された範囲（米軍関係施設）

凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 都県界
- 区界
- 河川

67

地盤

方法書 p. 7-46～7-47、7-50

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
供用時	敷地の存在 (土地の改変)による地盤の安定性	対象事業実施区域内の施設が全て存在している時期	地盤の安定性に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域	地盤の安定性の状況、事業計画を踏まえ、地盤の安定性への影響の程度を予測

68

地域社会

方法書 p.7-75~7-78

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
日常生活圏等の状況	資料	区民生活マップ等の入手可能な最新の資料の収集・整理
地域交通の状況	資料	道路交通センサス等の入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	主要交差点部における車種別・方向別・時間帯別の自動車交通量、渋滞の状況等について測定 調査期間：平日、休日、混雑時×各1回×24時間
歩行者の状況	現地	横断歩道において、歩行者・自転車交通量について測定 調査期間：平日、休日、混雑時×各1回×12時間 (地域交通と同時期)

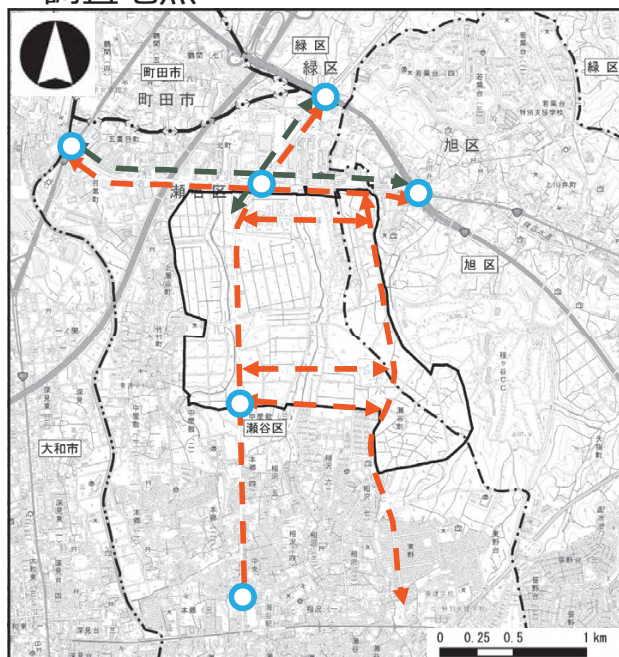
※ 主な調査項目を記載

69

地域社会

方法書 p.7-78

● 調査地点



- 地域社会（交通混雑、歩行者の安全）
- ←▶ 資材及び機械の運搬に用いる車両の主な運行ルート
- ←▶ 関係車両の主な運行ルート

凡例

- ▭ 対象事業実施区域
- 市界
- ⋯ 都県界
- 区界

70

地域社会

方法書 p. 7-75~7-78

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	・ <u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う交通混雑及び歩行者、自転車の安全</u>	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行台数が最大となる時期	運行ルート、走行ルートの主要交差点部及びこれらのルート沿道	・ <u>交通混雑交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測</u>
供用時	・ <u>関係車両の走行に伴う交通混雑及び歩行者、自転車の安全</u>	関係車両の走行が定常状態になる時期		・ <u>歩行者、自転車の安全現状の交通安全施設と本事業で実施する安全対策等を整理し、定性的に予測</u>

71

景観

方法書 p. 7-64~7-67

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
・ <u>主要な眺望点の状況</u> ・ <u>景観資源の状況</u> ・ <u>主要な眺望景観の状況</u>	資料	入手可能な最新の <u>資料の収集・整理</u>
	現地	景観資源の状況 現地踏査 調査時期：状況が把握できる適切な時期 主要な眺望景観の状況 写真撮影、目視確認による情報の収集 調査地点：14地点 調査時期：状況が把握できる適切な時期

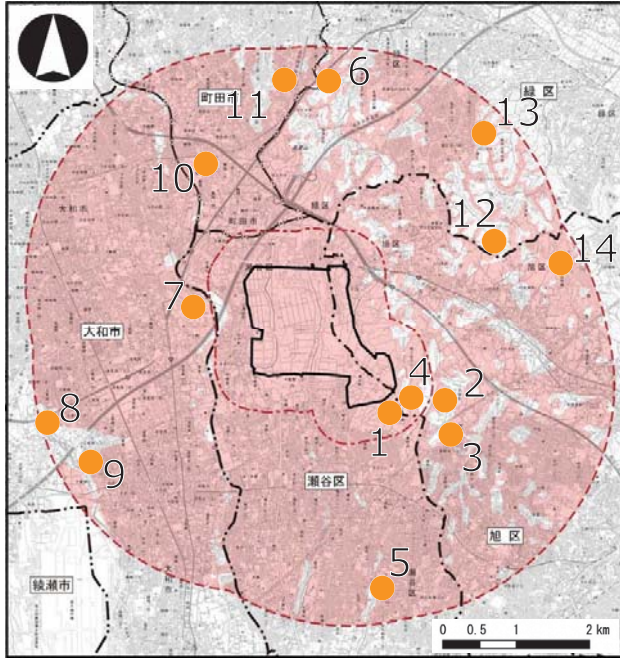
※ 主な調査項目を記載

72

景観

方法書 p. 7-67

● 調査地点



● 主要な眺望景観の状況 富士山を眺望できる範囲

No.	名称	No.	名称
1	瀬谷市民の森	8	泉の森
2	追分市民の森	9	ふれあいの森
3	矢指市民の森	10	鶴間公園
4	上川井市民の森	11	つくし野セントラルパーク
5	東山ふれあい樹林	12	三保市民の森
6	フィールドアスレチック横浜つくし野コース	13	新治市民の森
7	深見歴史の森	14	よこはま動物園ズーラシア

凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 都県界
- 区界
- 調査範囲 (対象事業実施区域から概ね3km圏)
- 近景域 (対象事業実施区域から概ね500m圏)

73

景観

方法書 p. 7-64~7-67

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
供用時	敷地の存在(土地の改変)及び構造物の存在による主要な眺望点、景観資源、主要な眺望景観に及ぼす影響の程度	・敷地の存在 ・対象事業実施区域内の構造物が全て存在している時期	主要な眺望点、景観資源、主要な眺望景観(14地点等)に係る環境影響を受ける恐れがあると認められる地域	<p>主要な眺望点の状況 事業計画を用いて主要な眺望点への影響の程度を予測</p> <p>景観資源の状況 事業計画を用いて景観資源への影響の程度を予測</p> <p>主要な眺望景観の状況 フォトモンタージュを作成し、眺望の変化の程度を定性的に予測</p>

74

人と自然との触れ合いの活動の場

方法書 p.7-68～7-72

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
・人と自然との触れ合いの活動の場の概況 ・主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況等	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況 現地踏査、聞き取りによる調査 調査時期：利用者が多い時期

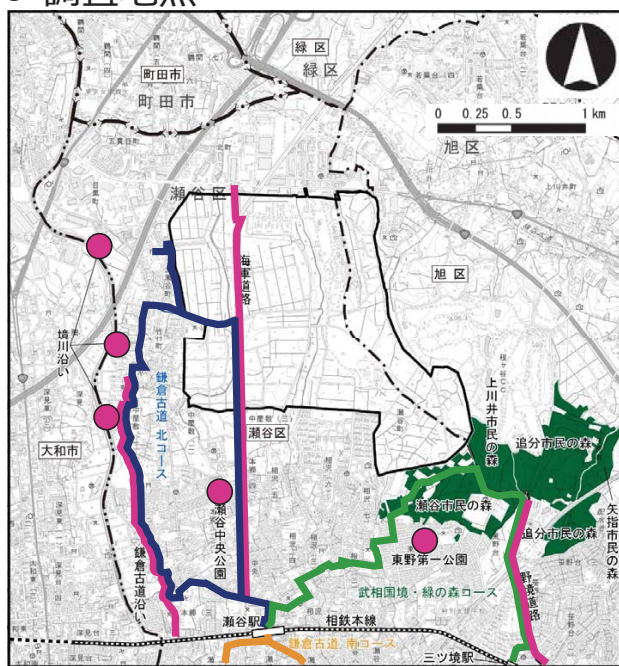
※ 主な調査項目を記載

75

人と自然との触れ合いの活動の場

方法書 p.7-72

● 調査地点



- ハイキングコース (鎌倉古道 北コース)
- ハイキングコース (武相国境・緑の森コース)
- ハイキングコース (鎌倉古道 南コース)
- 市民の森
- 桜の見どころスポット

凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 都県界
- 区界
- 駅
- 相鉄本線 (..... 地下部分)

76

人と自然との触れ合いの活動の場

方法書 p. 7-68~7-72

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響</u>	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行台数が最大となる時期	主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を受けると認められる地域	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートとして想定される道路の交通量等の変化から、 <u>利用特性への影響を予測</u>
	<u>土地の改変、構造物の存在、関係車両の走行による主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響</u>	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の存在及び対象事業実施区域内の構造物が全て存在している時期 関係車両の走行が、定常状態になる時期 		<ul style="list-style-type: none"> 事業計画等を用いて影響の程度を予測 関係車両の走行ルートとして想定される道路の交通量の変化から、<u>利用特性への影響を予測</u>

77

文化財等

方法書 p. 7-79

● 調査手法

調査項目※	調査方法	
<ul style="list-style-type: none"> <u>埋蔵文化財包蔵地の状況</u> <u>関係法令、計画等</u> 	資料	入手可能な最新の資料の収集・整理
	現地	必要に応じて現地踏査により実施

※ 主な調査項目を記載

● 予測手法

	予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
工事中	<u>造成工事の実施に伴う埋蔵文化財包蔵地の改変の程度</u>	工事期間中	埋蔵文化財包蔵地への影響が想定される地域	<u>埋蔵文化財包蔵地の位置と施工計画を比較し、改変の程度を定性的に予測</u>

78

他事業の影響も必要に応じて考慮する項目

方法書 p.7-9~7-79

- 下記の環境要素については、都市計画対象事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測

調査項目	
大気質	二酸化窒素/浮遊粒子状物質/粉じん等
騒音	
振動	
水質 (地下水の水質を除く)	水の濁り/水の汚れ
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに 主要な眺望景観
人と自然との触れ合いの 活動の場	主要な人と自然との触れ合いの 活動の場
地域社会	交通混雑/歩行者の安全

79

評価の手法

方法書 p.7-9~7-79

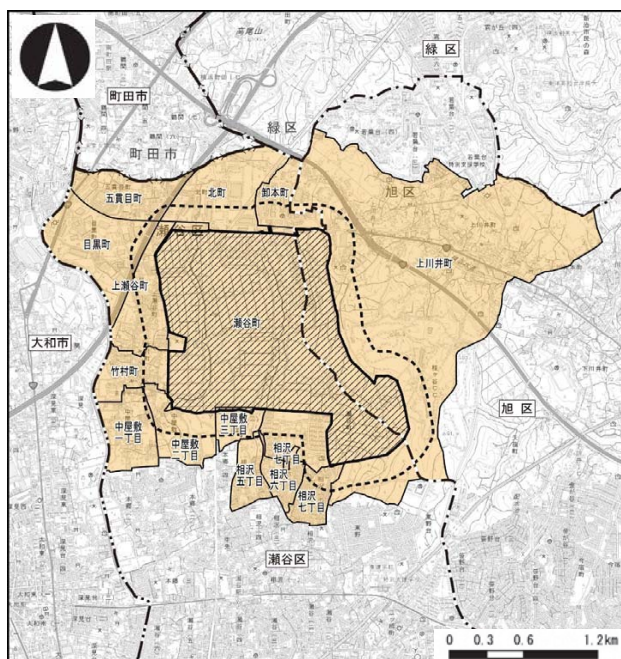
環境影響の回避、 低減に係る評価	調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討を行った場合にはその結果を踏まえ、 <u>本事業による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価</u>
国又は地方公共団体 による基準又は目標 との整合性の検討	<u>環境影響評価項目ごとに、下記に示した環境目標との整合性が図られているかどうかを明らかにすることにより評価</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基準 ・ 法令等で定められている基準 ・ 国、神奈川県、横浜市が定めた計画、指針等 ・ 地球環境に著しい影響を及ぼさない水準

80

6 方法書対象地域

方法書対象地域

方法書p. 8-1、8-2

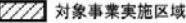

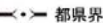


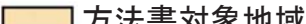


■ 方法書対象地域

【瀬谷区】瀬谷町、北町、
五貫目町、目黒町、上瀬
谷町、竹村町、中屋敷一
丁目、中屋敷二丁目、中
屋敷三丁目、卸本町、相
沢五丁目、相沢六丁目、
相沢七丁目

【旭区】上川井町

凡例

-  対象事業実施区域
-  市界
-  都県界
-  区界
-  区域境界から200m圏
-  方法書対象地域

ご清聴ありがとうございました。